

文教協会報

No.692

(令和8年7月)

まなびの泉
心のかよいあい

わくわく協働活動
ぬくもり
ふるさと・再見
声 こえ VOICE
～文教のまち 大垣～
ふるさと美術散歩⑬

幼児教育と小学校教育をつなぐ……………2
子どもたちが安心して成長できる環境をめざして (赤坂小学校)……………3
新しいライフスタイルに合わせたPTA活動 (日新小学校)……………3
第73回東海四県スポーツ推進委員研究大会……………4
デジタル・シティズンシップ教育の展開に向けて……………5
豊臣秀吉と大垣 (二) ……………6
水とともに暮らし、輪中で生きていく……………7
第63回 大垣市文教協会総会……………8
守屋多々志画伯の作品紹介……………8

大垣市文教協会60周年記念事業

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業

大垣市の未来について、考え、行動してみませんか？
地域の未来は自分たちでつくりあげていくものです
みんなが主人公となって、大垣市の未来をよりすてきなものに
するため、このミッションに参加してみませんか？

かける
大垣市 × SDGs お化けを探せ(第3期)

誰のとりざかりされることなく、暮らし続けることができるよう世界のさまざまな課題の解決のために
向けてつくられたSDGs。あなたたちは、SDGsを身近に感じていますか？世界だけでなく、
「私たちが暮らす大垣にも解決すべき課題はあるはず。その課題が「SDGsお化け」となって
私たちのまわりにいるとしたら…。そのお化けは私たちに何を訴えているのですか？」

「私たち お化けをばっけと、思しむ人がたくさんふえちゃうよ」
「未来をすてきなものにしたいの？」

大垣の未来を 私たちの手で素晴らしいものにしようというミッションの始まりです！
まずは、お化け探しに出かけましょう (今年度が最終の募集になります)。

大垣市×SDGs お化け これまでの受賞作品

第1期 (令和6年度)

第2期 (令和7年度)

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業
「大垣市×SDGs お化け」を探せ (第3期)

①子ども目線で調査！
子ども目線だからこそ見えるお化け (課題) が大垣
②SDGsは私たちの身近に！
見つけた課題をSDGsに結びつけよう
③お化け (課題) の特徴を調査！
特徴が見えたら、お化け退治への鍵になる
※この①～③のミッションを報告書 (応募用紙) にまとめよう！

「SDGsお化け」とは…SDGsの17の課題を根拠に自分の地域を見つめ課題
を見つけ、その課題をお化けとして表現したもの。

どうしてお化けなのか？
お化け (具体的な知らないもの) として表現することで、誰にとっても分かりやすい活動となるよう
にしていきたいと考えています。また、思いや存在であるお化けにすることで、「何もしないのではな
く、解決しなければならない課題である」と考えて欲しいという願いが込められています。

私たちの身近にある課題を見つけて、SDGsの目標と結び
つけてみよう。どの目標に関わるお化けでもいいよ。
入賞した作品は、プロのイラストレーターがすてきな作品に
仕上げてくれます。

【報告(応募)締切】
令和8年8月31日(月)
学校の先生に提出してね

【問合せ先】 大垣市文教協会事務局
〒503-0888 大垣市丸の内2-29
大垣市教育委員会 学校教育課
電話 0584-47-8034 FAX 0584-81-2655



大垣市文教協会60周年記念事業

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業
「大垣市×SDGsお化け」を探せ第3期募集
が始まります！



— 幼児教育と小学校教育をつなぐ —



左は、令和7年3月に岐阜県教育委員会より出された「架け橋期のぎふっこの学びとくらし」のパンフレットです。

このイラストは、幼児期を幼木に、小学校以降を若木に例え、幼児期の教育において育まれた「資質・能力」が、その後の学校教育全体の生活や学習の基盤となることを表しています。（詳しく知りたいときには、右の二次元コードを読み取ってみてください。）



このように、園で遊びを通して育んだ資質・能力が、小学校以降の学習や生活の基盤になっていることが分かります。そのため、園から小学校へ就学する子どもたちが、いきいきと自分らしく生活できるようにするためには、幼保小連携が大切だと言われています。

○幼保小連携とは

園（幼稚園・保育園・認定こども園）と小学校が連携し、幼児教育から小学校教育への接続を円滑にする取組です。5歳児から小学校1年生の「架け橋期」に、主体的な学びや生活を育むことを目的としています。

しかし、注意しないといけないのは「この連携は、小学校に向けての前倒しの教育をすることではないこと」「特別な内容に取り組むものではないこと」「全国一律で行うものではないこと」です。子どもに関わる大人が、立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることが大切です。

○架け橋期のカリキュラム

幼児教育と小学校教育には、教育課程の構成や指導方法等、さまざまな違いが存在しています。

この違いは、子どもの発達の段階に応じた教育を行うために必要な違いです。しかし、子ども一人一人の発達や学びは幼児期と児童期ではっきりと分かれるものではなく、つながっているものです。そのつながりを円滑に進めることができるように、大垣市では、小学校区ごとに「校区版接続期カリキュラム」が作成されています。このカリキュラムを活用し、園と小学校の先生が、共通の視点をもちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図っています。

また、円滑な接続のためには、園・小学校それぞれの教育をお互いに知ることも大切です。

文部科学省が幼児教育に関する動画資料を出しています。是非、参考に観てみてください。



（学校教育課 梅村 よしえ）



子どもたちが安心して成長できる環境をめざして

赤坂小学校 PTA会長 小寺 健

令和8年度、PTA会長を務めさせていただくことになりました。

PTA会長という大役を担うのは初めてであり、身の引き締まる思いであります。微力ではありますが、子どもたちの未来のために精一杯尽力してまいります。

私は「親子参加型・福祉運動会」の会長も兼任しており、こちらはかれこれ5年間務めております。赤坂小学校行事の中でも、地域や保護者同士のつながりを深める大切な行事の一つだと感じています。この運動会は順位を競い合うことだけが目的ではなく、親子や地域の皆さんが協力し合い、結束力を育む貴重な機会だと思っています。

また、保護者同士が育児について気軽に話し合える場にもなっており、地域全体で子育てを支えるきっかけにもなっています。保護者が地区の子どもたちの顔を知ること、日頃の見守りにもつながり、子どもたちは各家庭だけでなく、地区・地域・赤坂校区全体で守り育てていくものだと感じています。

運動会役員やPTA役員は保護者の協力によって成り立っています。役員として活動する姿は、子どもたちにとってもリーダーシップや支え合いの大切さを学ぶ機会になるのではないのでしょうか。

今後も福祉運動会や資源回収などの行事を通して、地域全体を盛り上げ、子どもたちが安心して成長できる環境づくりに努めてまいります。



福祉運動会の様子

新しいライフスタイルに合わせたPTA活動

日新小学校 PTA会長 篠田 将秀

近年、時代が急激に変化していることを実感します。特にコロナ禍からは、オンライン化の急速な普及、働き方・暮らし方の構造転換、ライフスタイル・価値観の変容など、これまでの「当たり前」を根本から見直す時代となりました。

そのような中、日新小PTA活動についても、時代に沿ったPTA活動内容へ見直し、「できる人が、できる時に、できる範囲で」を会員の方と共有し、いかに子どもたちを学校・保護者・地域の方々で見守っていけるかを考えております。

昨今、働き方改革による学校側の負担、保護者側も仕事と子育てとの両立もあり、PTA活動に関わる方の負担を軽減する方法や効率的な方法へ転換していく必要があります。関係する皆さんにとってより良い形とはどのようなものか執行部で検討しながら、その時その時にあったスタイルでの活動内容で対応しています。

日新小PTAの活動の中で、以前から行っている清掃活動についての取組方を変えました。内容は、運動会前の草取りやトイレ掃除・高所の窓ふき・床のくすみ取り・机や椅子の高さ調整など、ふだん子どもたちでは清掃等ができないところの清掃を保護者の方に協力いただいています。毎年決まった時期ではなく、学校側と調整し、保護者が必要なときに活動ができるような日程等を柔軟に決めております。

PTA活動とは、子どもたちが安心・安全に学校生活が過ごせるように、皆さんでサポートをしていく活動が原点だと思います。

自分が出来ないときは代わりの方が手伝い、他の方ができないときは自分が手伝い、子どもたちを保護者の皆さん全員で見守っていくという相互理解を深めるために、これからも活動していければと思っています。



子どもたちのための清掃活動

第73回東海四県スポーツ推進委員研究大会

1 はじめに

毎年2月に東海四県の市町村のスポーツ推進委員が集まる東海四県スポーツ推進委員研究大会が開催されています。

今回、大垣市では『生涯スポーツの新たな展開～みんなで楽しむスポーツの推進～』をテーマに研究発表を行いました。発表当日まで事務局による修正作業や、研究発表メンバーによる原稿・スライド資料の編集を繰り返して準備を重ねました。

2 スポーツ推進委員協議会について

スポーツ推進委員協議会は、市内22の小学校区から選ばれた63名の委員で構成されており、校区・ブロック・専門部会の3つの柱を中心に活動を展開しています。

子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる、楽しさを重視したスポーツ環境の整備に力を入れています。

3 活動の様子

(1) みんなのスポーツ



(2) タスポニー交流大会



4 今後の展望

今後は、SNS等デジタルツールを活用した情報発信の強化と、若い世代の主体的参画を促す仕組みづくりに一層力を入れるとともに、スポーツ推進委員の認知度向上にも取り組んでまいります。

研究発表をきっかけに63名の委員が一つになるという大変貴重な機会をいただきました。今後も「みんなで楽しむスポーツの推進」をテーマに、市民一人一人が年齢・体力・経験に関わらず、スポーツを通じて健康で豊かな生活を送れるよう、生涯スポーツの推進に全力で取り組んでまいります。

(社会教育スポーツ課 初島)

ぬくもり

デジタル・シティズンシップ教育の展開に向けて

次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会での取りまとめが進んでいます。その中でも特に目を引くのが「ウェルビーイング」「授業時数の柔軟化」、そして「デジタル・AI」関連の内容です。

デジタル・AI関連の資料を通読すると、「デジタル・シティズンシップ」という言葉や、それに類する内容をよく目にします。近年では一人一台端末の根拠となる「GIGAスクール構想」を推進する文部科学省の資料等においても、その重要性が明記されるようになっていきます。デジタル・シティズンシップとは、「デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力のこと」とされ、従来、「～してはいけない」と禁止・制限してきた内容を、「～しよう」というポジティブな考え方にシフトしています。

私も、情報モラル講話の講師としてお話をさせていただくとき、このことを念頭に内容を考えています。数年前までは、情報端末やSNSのアカウントをもっている児童生徒は今ほど多くありませんでした。しかし現在では、多くの児童生徒がそれらを所持しているのが現状です。

こうした環境の中では、児童生徒からSNSを取り上げる・使用を制限するという考え方では社会の変化に追いつきません。そこで、「旅行中の様子をSNSに投稿する場合、どんなことに気を付けますか?」といった具合に、投稿画面の例を示しながら、「顔写真を出さない」という基本的な内容に加え、「写真から位置情報を削除する」「旅行中に投稿しない（家が留守であることがわからないようにする）」という内容を扱います。これは、投稿の「制限・禁止」ではなく、「どのような投稿をするとよいか」を考えさせる内容になります。

教育現場が家庭での使用を制限・禁止するよう促したとしても、すでに日常的に端末を手に行っている児童生徒の実態をコントロールすることは困難です。学校が使用に否定的だと、児童生徒は実態を隠しがちになり、いざトラブルに巻き込まれた際に学校へ相談しにくくなってしまいます。もちろん、家庭が与えた端末ですので責任は家庭にあります。しかし、相談しやすい身近な大人として、小中学校の先生方が児童生徒にとって大きな存在であるのも事実です。解決は保護者に委ねるにしても、悩みを共有したり、軽減したりすることは大切です。



デジタル・シティズンシップの考え方では、SNSに投稿することに加え、複数のSNSアカウントを使い分け、それぞれに違う人格を装うことや、「盛る」「映える」投稿をすることにも理解を示しています。総務省が発信している『家庭で学ぶデジタル・シティズンシップガイドブック（2023）』でも、『『なりたい自分』や『違う自分』を演出することは、子どもたちにとって、自己表現を楽しむことであり、自分のアイデンティティを形成する、心理的な成長過程のひとつです。』と明記してあります。そのうえで、どのような家庭教育が適切かを解説しています。

同ガイドブックの「メディアバランスとウェルビーイング」の項目では、「デジタル・メディアの長時間利用は、心身の疲労や生活に影響しますが、薬物・ギャンブル依存症のような重篤な事案につながることは多くありません。誇張報道される『ネット依存』や『ゲーム依存』を疑うのは、保護者にも子どもにも、ストレスになってしまいます。」とまで書かれています。

一人一台端末の活用が進む一方で、現場では不適切な使用を理由に「使用禁止」や「端末の回収」といった対応をせざるを得ない場面もまだ見受けられます。端末は学びを支える道具であることを踏まえれば、トラブルが起きたときこそ、それを「どう使いこなしていくか」を子どもたちと共に考える機会に変えていく。そんな指導のアップデートが、今まさに求められているのではないのでしょうか。

次期学習指導要領の改訂に向け、デジタル・シティズンシップ教育の考え方について理解を深め、よりよいデジタル社会を築いていく環境を整えていきたいものです。

（大垣市教育総合研究所 情報・研修センター 高木 至）

No.690号では、豊臣秀吉と大垣の関係を、天正11年（1583）まで紹介しました。今号では、天正12年の小牧・長久手の戦い和大垣との関係を紹介します。

小牧・長久手の戦い和大垣城

天正12年3月、豊臣秀吉と織田^{のぶかつ}信雄・徳川家康が対立し、小牧・長久手の戦いが起こりました。大垣城主であった池田^{つねおき}恒興は長男元助（岐阜城主）・二男輝政（池尻城主）とともに豊臣秀吉に味方し、犬山城を攻め落とし、小牧山城の徳川家康・織田信雄と対陣しました。

4月になると、豊臣軍は守りの弱い三河国（愛知県東部）を攻めようと、豊臣秀次を大将に池田恒興父子等で編成された軍を三河国へ向けて進発させました。豊臣軍の動きに気付いた徳川家康は、小牧山城を出て、4月9日、秀次軍を攻撃し、長久手の戦いで池田恒興等を討ち取り、大勝しました。

秀吉は、直後の11日、大垣にいた池田恒興の母親（養徳院、織田信長の乳母）へ弔いの使者を送り、池田家に残された輝政等を取り立てることや大垣城の混乱を静めるため豊臣秀次を大垣城の留守居に派遣することを伝えます。さらに秀吉は自ら大垣に入り、17日、見舞いのため養徳院を訪ねます。秀吉の養徳院に対する気遣いの深さや細やかさを感じさせます。

5月になると、戦局は尾張国（愛知県）の西部に移り、豊臣軍は加賀野井城や竹ヶ鼻城（いずれも羽島市）を攻めます。水攻めで竹ヶ鼻城を落城させた秀吉は、6月9日墨俣城で茶会を開いています。長久手の戦いでの敗戦直後に、池田家の重臣である伊木^{いぎただつぐ}忠次に対し墨俣城普請を命じていますので、その出来具合を確認することも含めて、墨俣城で茶会を開いたのかもしれ



墨俣一夜城（大垣市墨俣歴史資料館）

れません。

7月5日、秀吉は尾張に出陣する予定でしたが、体調不良で出陣を延期し、自身の代わりに弟の秀長に対して、池尻城に8月まで在城して、尾張との国境付近にある城へ増援部隊の派遣を指揮するよう命じます。

体調が回復した秀吉は7月17日、美濃へ出陣し曾根城に入りました。秀吉は蜂須賀^{はちす かまさかつ}正勝や黒田官兵衛等を曾根城に呼びよせ、戦況報告を受けています。

戦況を確認した秀吉は、一度大坂城に戻り、8月15日、再度大垣城に入りました。秀吉は弟の秀長に軍勢が渡河できるよう船橋を造るよう指示します。秀吉が来るまで池尻城にいた秀長は秀吉の名代としてこの戦局を指揮していたかもしれません。

その後、戦局は膠着^{こうちゃく}状態となり、秀吉は再度大坂城に戻りました。美濃を離れるにあたり、秀吉は大垣城留守居の加藤^{よしあき}嘉明に対し、城普請を行って守りを固め、軽率に城から打って出ないよう戒めています。

11月になり、ようやく和睦が成立し、長かった小牧・長久手の戦いは一旦終結しました。

（図書館 歴史研究グループ 児玉 剛）

水とともに暮らし、輪中で生きていく

大垣市輪中館・輪中生活館 館長 片桐 一

1 はじめに

大垣市は全国でも有数の自噴帯に位置し、豊富な地下水に恵まれ「水都」と呼ばれてきました。市内には良質な地下水が湧き出す井戸が各所にあり、近年は水を生かした名産品を求めて数多くの方が訪れます。

その一方で、低地で河川に囲まれた大垣市は、「洪水常襲地域」として頻繁に発生する洪水との闘いを繰り返し、生命や財産を守るために「輪中」を生み出してきました。

近代化によって、現在、輪中の景観や生活様式は失われつつありますが、水害や治水の歴史、輪中地域の生活や文化を学び体感できる歴史文化施設として、平成4年に大垣市輪中館、平成9年に旧名和邸を復元した大垣市輪中生活館が開設されました。



大垣市輪中館の館内



大垣市輪中生活館

2 「NIPPON防災資産」

令和7年12月に、輪中館と輪中生活館は「NIPPON防災資産」に認定されました。これは地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動などを、内閣府と国土交通省が「NIPPON防災資産」として認定するものです。

輪中地域の建物や当時の生活の様子に触れられることや、輪中地域の生活や文化、先人の功績や防災について学んだり体験したりする当館の事業が評価されて認定をしていただきました。

また、市内外から児童・生徒のみならず



「NIPPON防災資産」認定証

んや先生方が、社会科や総合的な学習の時間、「ふるさと大垣科」の学習として、見学に訪れます。輪中地域特有の高い石積みの土台の上に建てられた伝統的な水屋建築を研究している大学生や研究者が現地での施設見学や研究のために来館されることもあります。

3 先人の教えは今にいきる

さて、近年、気候変動の影響によって線状降水帯の発生や集中豪雨による水害が各地で頻発し、甚大な被害をもたらしています。今後、こうした豪雨や河川の氾濫等による自然災害は、さらに増加していくと予想されます。

前述しましたように、洪水による被害が繰り返されてきた輪中地域で暮らす私たちにとって、自然災害（特に水害）を自分事としてとらえ、防災・減災について積極的に学んでいくことはとても大切なことです。

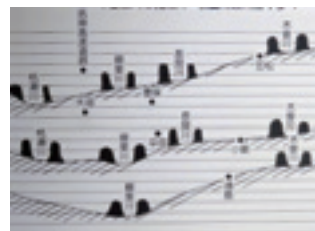
そうしたときに、「どうして河川の氾濫が何度も起きてきたのか」という問いに対する地形的要因や歴史的背景、「どのようにして人々は水害に向き合い、乗り越えようとしたのか」という問いに対する工夫した先人の取組や功績を、

輪中館・輪中生活館にご来館していただければ、気づき、学びを深めることができると思います。

また、輪中地域の先人が数々の教訓を

踏まえて地域の生態系を保全しつつ利活用してきたこと（防災）や、自然災害の発生を前提とした土地利用や暮らし方（減災）は、「現在の私たちの暮らしを守るため」の治水対策に活かされる工夫や知恵と言えます。

すなわち、輪中地域で生きてきた先人の教えは、私たちに自然災害（水害）への備えの大切さを伝え、この地で安全に暮らす術を導いてくれているのだと思います。



木曽三川の川底の比較



～ 文教のまち 大垣 ～

第63回 大垣市文教協会総会

令和8年5月29日（金）大垣市情報工房において、第63回大垣市文教協会総会を開催しました。会場にて参集された役員、特別会員の皆様、各学校・各園の代表の皆様に加え、各学校・園の教職員、賛助会員の皆様をオンラインでつなぎ、総勢800人を超す会員の皆様にご参加いただきました。

第1部の総会では、石田 仁市長からご祝辞を頂戴しました。小川 信也会長は、「文教協会60周年記念事業」についての報告、今後の活動に向けての展望について述べられました。続いて、令和7年度事業並びに決算報告、令和8年度事業計画並びに、予算が報告されました。そ

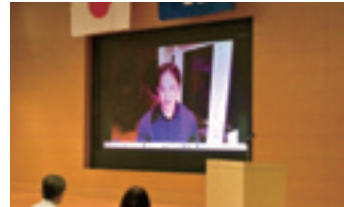


第1部 総会の様子

して最後に、令和7年度の実践研究論文で戸田氏庸賞を受賞された、上石津学園（現在：岐阜大学教育学部附属小学校勤務）田中 紗里教諭より、『生活・社会・未来へとつながる「探究的な学び」の創造』について、発表をしていただきました。

第2部では、「自分の人生もがいてなんぼ」というテーマで、岐阜iネクスト（GiNX）メンバー元MLB通訳 二村 健次様よりご講話いただきました。子どもたちの未来へつながるキャリア教育にいかせる内容で、大変興味深く耳を傾けていた方が多くいらっしゃいました。

（学校教育課 梅村 よしえ）



第2部 二村 健次様のオンライン講話の様子

ふるさと美術散歩⑬ 守屋多々志画伯の作品紹介



《ある日の武蔵》昭和63年（1988）（大垣市蔵）

江戸時代初期の剣客宮本武蔵（1584?～1645）を描いた守屋多々志画伯の晩年の作品です。武蔵は、武者修行のために諸国を遍歴し、二刀流をあみ出して、二天一流の祖となります。武人として名高い武蔵は、慶長17年（1612）、壇ノ浦（山口県下関市）にある巖流島（船島）での佐々木小次郎との決闘で名高いですが、晩年は、鋭い感性を生かし、仏像彫刻、水墨画に優れた才能を発揮しました。

この作品に限らず、守屋が描く武士の姿は、戦いに臨む前の緊張した姿であったり、亡霊となっても家族の元に現れる姿であったりと戦場以外での姿が多く、この作品もその特徴が表れています。

海辺に打ち上げられた流木が、武蔵の座る浜

と海を大胆に区切る形で配置されています。このような構図は、守屋のほかの作品でもしばしば見られます。

晩年の守屋の作品は、暗い色調の作品や宗教的な作品が多い傾向にあります。この作品は、決して暗い作品ではありませんが、さわやかな青い海が武蔵の澄んだ心を表しているようであり、海辺で流木に一心に仏像を彫る姿からは、深い信仰心が感じられます。この作品について守屋は、「己が剣に討たれた人々の冥福を祈り、一心に仏像を刻む。青海は心の海である。」と述懐しています。また、画像では見えづらいですが流木の左の方に一匹の蜥蜴が描かれており、決闘に敗れた小次郎の魂だといわれています。

一心に仏像を彫る武蔵の姿を見つめていると、私たちも武蔵とともに自らの内面を見つめているような気持ちになっていく作品です。

（文化振興課 上田 朋子）

第1回 市収蔵 守屋多々志作品展「夏の色～青の彩り」
会期：令和8年7月18日（土）～8月30日（日）
夏の様子を描いた作品や、青色が映える作品を中心に展示。